



公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

2013年度(第33期)事業報告書



愛の輪運動は障がい者の自立と社会との共生を応援しています。

## ごあいさつ

合掌

1981年、国際障害者年に始まった愛の輪運動は、今年で34年目を迎えます。  
今日までに、多くの皆さまのご支援ご賛同を賜り、活動を拡大・継続させていただくことができましたことに、心より御礼申し上げます。

現在、「ダスキン愛の輪基金」は、大きく2つの事業を実施させていただいています。  
1つ目は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者を海外に研修派遣する事業です。設立以来、33年間で470名が研修を修了し、帰国後はその貴重な体験を活かし、大学教授や県議会議員、自立生活センターの運営、障がい者スポーツのインストラクターなど様々な分野で活躍されています。  
2つ目は、1999年より実施しているアジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き障がい者福祉を学んでいただく事業です。15年間で109名の研修生が学び、母国でリーダーとして活躍されています。

株式会社ダスキンは、昨年、創業50周年を迎え、  
今年は全国9地域で地域大会を開催させていただいております。  
そこに招待されている研修修了生の方にお会いする機会があるのですが、  
生き活きた表情で現在の活動について報告しておられる様子を見て、  
あらためて愛の輪運動の意義を感じております。

これらの活動は、会員さまからの会費、ミスタードーナツ店舗などでの募金、  
多くの方々からの献金と、研修生を受け入れていただく関係機関を含めた皆さま方からの  
研修生への温かい励ましなど物心両面での支えがあって、続けていくことができました。  
これからも公益財団としての使命を認識し、「愛の輪の活動」をより多くの方達に  
知っていただくことにも取り組むとともに、全ての人が心豊かに暮らせる社会づくりの  
お手伝いを地道に続けてまいります。  
今後共、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。 合掌

公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

理事長 **山村輝治**



## 第33期も愛の輪会員の皆さまの温かいご支援を賜り、 さまざまな活動を行うことができました。

### 公益財団法人ダスキン愛の輪基金 2013年度(第33期)事業報告書 目次

#### 1 理事長あいさつ

#### 3 ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業

#### 7 ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業

#### 9 愛の輪地域活動

- 各地域で広がる「愛の輪」啓発活動
- 新春のつどい
- ダスキンファミリー感謝のつどい
- ミスタードーナツ第34回フレンドシップフェスティバル

#### 11 正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録 収入・支出・会員数の推移

#### 13 財団33年の歩み

#### 14 役員・委員一覧

#### 15 めい あい へるぷ ゆう - ダスキン愛の輪基金 あいのわ宣言 「広げよう愛の輪運動」会員憲章

#### 障害の「がい」の文字表記について

この事業報告書では、事業名称等定款に記載されている文言、ならびに法律用語については漢字表記とし、それ以外については「害」を「がい」とひらがな表記とさせていただいております。



事業発足後、33年間で  
470名の研修生を海外に派遣してきました。  
第33期は、個人研修生4名、  
グループ研修生1グループ5名を研修派遣しました。

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、1981年に国連で決議された「国際障害者年」にちなみ、障がい者の社会への完全参加と平等の実現を目指して発足しました。障がいのある人を対象とした海外研修派遣制度として、国内外に広く知られています。この事業は、地域社会のリーダーとして貢献したいと願う障がいのある若者に、海外で実地研修していただくものです。2013年6月4日、ダスキン本社で第33期研修派遣生の壮行会が開催された後、研修派遣生たちはそれぞれの研修先へ出発、研修を行いました。



スケジュール

2012年9月1日・・・募集開始      2012年11月30日・・・募集締切  
2013年1月5日・・・書類選考      2013年2月2日・・・面接審査  
2013年3月22日・・・・・・・・・・・・ 研修派遣生決定  
2013年3月30日～31日・・・・・・・・ 事前研修会  
2013年6月4日・・・・・・・・・・・・ 知的障害者グループ研修「OSAMURAI☆じゃぱん」事前準備勉強会  
2013年6月4日・・・・・・・・・・・・ 壮行会  
2013年8月7日～12日・・・・・・・・ 知的障害者グループ研修「OSAMURAI☆じゃぱん」研修派遣実施  
2013年12月21日～2014年6月21日・・・個人研修生 古田雅人さん研修派遣実施  
2014年2月23日～6月30日・・・・・・・・ 個人研修生 小林功治さん研修派遣実施  
2014年3月24日～2015年3月(予定)・・・個人研修生 岩山誠さん研修派遣実施  
2014年4月8日～2015年2月(予定)・・・個人研修生 山本真記子さん研修派遣実施

欧米で感銘を受けた「法律の重要性」。  
盲ろう者に有益な法律が就労につながる。

アメリカでは世界最大の盲ろう者の就労支援施設ヘレンケラーナショナルセンターにて、全米より集まった盲ろう訓練生と共に生活し、学びました。スウェーデンではストックホルムをはじめ、4つの地域で多くの盲ろう関係施設を回りました。「百聞は一見にしかず」の言葉どおり、日本で聞いていたこととは大きく異なっていたこと、また、自分の予想以上に素晴らしい支援もありました。行ってみたいとわからないというのは本当だな、と思いました。とりわけ感銘を受けたのが、法律の重要性です。両国には盲

ろう者にとって有益な法律がいくつかあり、それらが支援資源・テクノロジー活用を円滑にし、コミュニケーションの幅を広げること、そして、就労にもつながっています。日本では今後、障害者差別解消法も施行されることになりました。盲ろう者の定義も法化されなければなりません。このことが盲ろう者福祉の向上を導くと、欧米の研修で強く感じました。今後、これらの学びを受けて、日本で活動できることをうれしく思っています。



個人研修生  
小林 功治さん  
(盲ろう)  
【研 修 先】アメリカ:ヘレンケラーナショナルセンター  
スウェーデン:スウェーデン盲ろう協会  
【研 修 期 間】2014年2月23日～2014年6月30日  
【研修テーマ】盲ろう者の就労支援



国際協力の重要性を探求し、  
国際的な活動に携わる活力を培いたい。

現在は世界の国際関係状況について学んでおり、今後はフィンランドが支援する各国との関係状況や他国間の国際支援について考察します。毎日の課題に追われながらも、自分らしく研修を進めることができています。フィンランドでは多くの福祉制度が整っています。フィンランドの社会保障は、①予防目的の社会福祉保健制度、②社会福祉保健サービス、③所得保障の三つの柱によって成り立ち、国が所得保障を、そして自治体が福祉サービスを担っています。女性が子どもを育てるための

保障サービスや育児支援金制度など、養育のための保障もしっかりとしています。また、ゲーム企業がゲームセンター運営によって得た売上金をフィンランド全土の障がい者団体や高齢者団体に寄付するという福祉事業もあります。引き続き、残された時間を大切に多くの事を吸収したいと思います。ダスキン愛の輪派遣事業は多くの素敵な経験と出会いを運んでくれる宝船です。その宝船の積み荷をもっと増やしていくことが、私たち派遣生の使命であると実感しています。



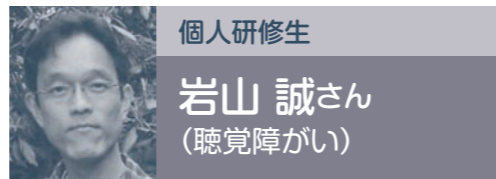
個人研修生  
山本 真記子さん  
(聴覚障がい)  
【研 修 先】フィンランド:Finnish Association of the Deaf (FAD=フィンランドろう協会)  
【研 修 期 間】2014年4月8日～2015年2月15日(予定)  
【研修テーマ】国際協力への糸口をつかむ



障がい者が職場に必要な支援を受けられる  
英国の制度に感銘を受けました。

私が研修先に赴いたとき、日本では信じられない光景が待ち受けていました。聴覚障がいのあるスタッフ一人ひとりに手話通訳者がずっと付き添い、ミーティングや電話対応のやり取りをサポートしていたのです。そればかりか、通訳者は聴覚障がい者が作成した文書やメールの文章校正まで対応しています。こうした手厚いサポートにより、聴覚障がい者は聴者とまったく同様に業務をこなしていました。イギリスではこのように障がい者が職場に必要な支援を利用して能力を発揮できるようにサポートする

公的な制度、Access to Workが設けられています。この制度は職務遂行の円滑化のみならず、管理職や政治家、大学教員など社会的地位の高い職業への進出につながっています。わが国でもようやく障害者差別解消法が制定され、障がい者に対する合理的配慮の提供が義務付けられました。そこで、障がい者が職場に必要な配慮を受けられる体制を整備することが次なる課題となってきますが、Access to Workはその解決方法としてひとつのモデルとなると考えています。



個人研修生

岩山 誠さん  
(聴覚障がい)

【研修先】イギリス: University of Central Lancashire, International Institute for Sign Language and Deaf Studies (isLanDS)  
【研修期間】2014年3月24日～2015年3月10日(予定)  
【研修テーマ】イギリスにおける聴覚障がい者の就労支援体制の現状



しっかりとしたビジョンを持って  
行動することがなによりも大切!

どんなことも達成するまでは不可能に見える。これは研修先の副所長がよく口にしていた言葉です。CP Centerは75年前、普通学校では受け入れが困難とされた重度身体・発達障がい者に教育を受ける場を与えるために、彼らの親が中心となって設立。当時は街もバリアフリーではなく、障がい者が受けられるサービスがとても少なかった時代です。彼らのような人々が活動することで少しずつ変わってきたのです。現在では、アメリカ障がい者法が制定後、法律上での障がい者差別が撤廃され、援助付き雇用

や個人の目的に合わせた職業支援が受けられるようになり、たくさんの重度障がいを持った方たちが働き、家庭を築き、仲間と共にスポーツに励んだり、障がいのない人たちと変わらない幸せな生活を送れるようになってきました。当事者たちが行動して法律や制度がかわり、充実したサポートや権利を勝ち取ってきたのです。研修では、大切なことはしっかりとしたビジョンを立てて、当事者一人ひとりがそのビジョンに向かって行動することだと学びました。



個人研修生

古田 雅人さん  
(肢体不自由)

【研修先】アメリカ: Cerebral Palsy Center for the Bay Area  
【研修期間】2013年12月21日～2014年6月21日  
【研修テーマ】アメリカでの障がい者の就労支援について学ぶ



知的障害者グループ研修

OSAMURAI☆じゃぱん

【メンバー】吉田 佑莉香さん 後藤 真人さん 宇井 智恵さん 谷口 依久実さん 西村 昭人さん  
知的発達障がい児(者)の療育と地域生活支援の学習  
【研修テーマ】アメリカ・ロサンゼルス福祉施設を訪問し、知的障がい者が自立生活を実現させるために  
【研修先】必要な「環境」や「トレーニング」などを自分の目で見て、自分の体で確かめる。  
●デイ・アクティビティセンター「キャニオン・ベルデ」 ●グループホーム「スターハウスⅡ」  
●ポモナバレー・ワークショップ ●マイカル・ラーニング・プレイス  
【研修期間】2013年8月7日～12日



吉田 佑莉香さん



初めてアメリカに行ってみたことは、日本とは違って障がいのある人の差別がないことです。日本のテーマパークには、車いすで乗れるアトラクションはありません。アメリカでは車いすで乗れるアトラクションがたくさんあり、専用ゲートもあって感動しました。日本にもこのようなシステムがあればいいなと思いました。アメリカの作業所は、1カ所に7つの仕事があり、すごいと思いました。アメリカで学んだことを、日本に帰っている人々に教えたいと思いました。

後藤 真人さん



発達障がいの人たちが働くキャニオン・ベルデでは、英語で自己紹介をしました。ポモナバレーワークショップは、箱の組立てやスポンジの袋詰め作業、水泳用耳栓の製造などの仕事ができる工場でもとても広がりました。今回の研修でいちばん感じたのは、日米で同じような障がいのある人でも、アメリカの人たちは考え方がしっかりしていて、自分のやりたいことがはっきりわかっているようでした。ほくも自分の意見をしっかり持ち、この経験を就職活動や趣味に役立てたいです。

宇井 智恵さん



アメリカ研修は夢のような時間でした。いろんな施設を見て、たくさんの人に会って、ボウリングもできてとても楽しかったです。いちばん楽しかったのはディズニーランドで遊んだこと。車いすの人も乗れたので、すごいなと思いました。その次に楽しかったのはホテルでピアノを弾いたことです。エドさんにほめてもらいました。心に残ったことは、女子のリーダーとして活躍できたことです。たくさんの人にほめていただきました。とってもうれしかったし、自信ができました。

谷口 依久実さん



研修で感じたのはアメリカは明るいことです。みんなが笑顔だということです。みんなが「いっちゃん」と呼んでくれてうれしかったです。はじめは緊張しましたが、すぐに気持ちがやわらかくなりました。みんなが笑顔だと幸せな気持ちになりました。日本の作業所でもみんながいつも明るく、笑顔で仕事ができるように、仲良くなる気持ちを作っていきたいと思いました。日本も明るくなるように、みんなが笑えるように頑張りたいです。みんなで夢を目指して頑張りたいです。

西村 昭人さん



スターハウスⅡは日本のグループホームとあまり変わりがないかなと思いましたが、自分で買い物や料理をして、体調管理のためにエアロバイクを使っていたことに驚きました。ディズニーランドにも行きました。乗り物が苦手な日本ではまったく乗れなかったのですが、10個も乗ることができてとても楽しかったです。この研修でたくさんのことを学び、体験することができました。今まで旅行に行くことが苦手だった私が、今回の研修に参加できたことで大きな自信になりました。



## 発足より15年目を迎えた アジア太平洋地域からの 研修生招へい事業。

1999年に発足したこの事業は、アジア太平洋地域の障がいのある若者を日本へ招き、日本各地の機関・施設で障がい者福祉を学んでもらい、帰国後は母国のリーダーとして活躍していただくという人材育成事業です。応募者252名の中から選出された第15期の6名は、2013年9月2日にダスキン本社で開催された開講式の後、各々が約10ヵ月間の研修に臨みました。



**カルティカ・アンギタ・  
タヌミジャヤさん**  
愛称: ティカ 出身地: インドネシア  
視覚障がい

母国では、コアメンバーとして活動している団体の会議に参加したり、視覚障がい者ITセンターの理事を務めているティカさん。日本での研修では、視覚障がいに限らず日本の障がい者の生活を知り、視覚に障がいのある人のための最新機器などについて学びました。帰国後は、ITセンターでDAISY図書の作成やコンピュータ関連の指導を行う予定。いずれは、視覚障がいのある子どもたちに対してIT技術や点字の指導、また視覚障がい者を対象にしたピアカウンセリングの実施を目標にしています。



**アイリッシュ・アイエサ・  
メンデスさん**  
愛称: アイリッシュ 出身地: フィリピン  
視覚障がい

アイリッシュさんは、De La Salle大学教育学部で特別支援教育を学ぶとともに、視覚障がい者に対して情報とコミュニケーション技術を教育するフィリピン唯一のコンピュータ学校の評議員としても活動。日本では視覚障がい者や盲ろう者に対する教授方法を学び、視覚障がい者や知的障がい者のワークショップなどにも参加。帰国後の目標としては、DAISYを含むIT技術の指導のほか、インクルーシブ教育を実践する地域の小学校で教師として働き、子どもたちに日本で学んだことを伝えたいと願っています。



**ナムチョック・  
ペットセンさん**  
愛称: ダム 出身地: タイ  
肢体不自由

障がいがあるために辛い学生生活を強いられたことをきっかけに、自身で障がい者の自立支援プロジェクトを設立したダムさん。母国では5人のチームで活動を行っています。研修では日本における障がい者の生活や、障がいのある人が社会でどのように受け止められているのかを学習。帰国後は、自身のプロジェクトをさらに発展させ、バイク式車いすをもっとたくさん製作して障がいのある人たちに配布したり、インクルーシブ教育に関する情報をタイの人々に伝える活動を行うことを予定しています。



**オマー・パーヴェイズさん**  
愛称: オマー  
出身地: パキスタン  
肢体不自由

パキスタンで唯一、障がい者の権利を守るために法案の設立を目指す、弁護士などからなる団体の代表を務めているオマーさん。母国では障がい者に関する数多くの判例を読み、法廷で法律の遵守に向けて活動しています。日本の研修では、障がい者関連法や障がい者団体と政府の関係、日本の障がい者運動などの知識を身につけました。帰国後は、日本で学んだ障がい者関連条例の制定のプロセスを参考に、パキスタンに実行力のある障がい者法を制定するための運動に取り組みたいとしています。



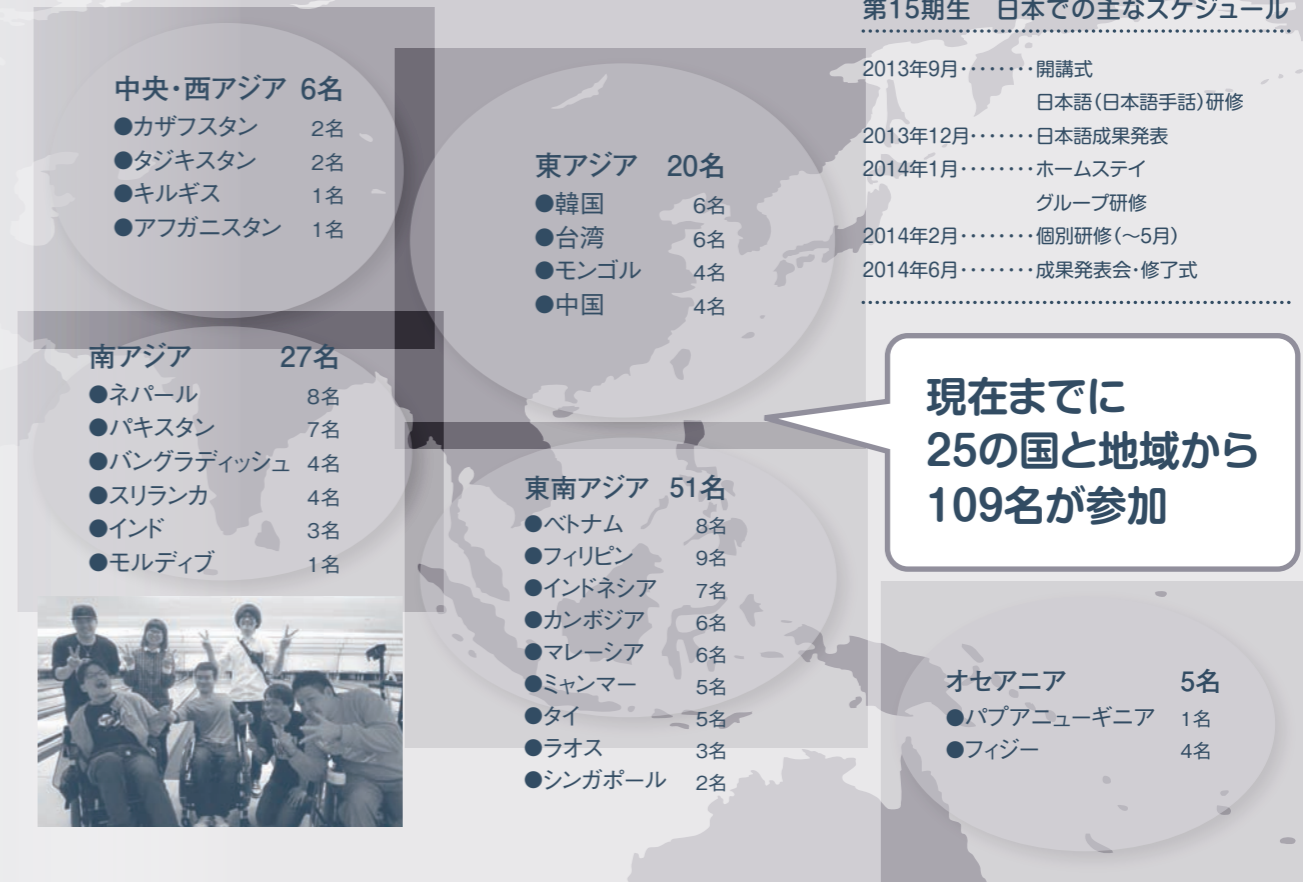
**ヌウン・チョ・ダイさん**  
愛称: ダイ  
出身地: ベトナム  
肢体不自由

ダイさんは、障がい者のためのNGOが主宰する訓練コースや、ベトナムベテランズ・アメリカ財団(VVAF)による各種プログラムに参加。現在はインターンとして企業に派遣され、会計とITに関する業務に従事しています。研修では、日本における障がい者の雇用と就労や社会的企業の実施方法などを習得。帰国後の目標としては、障がい者団体間のネットワークを作ること。また、障がいのある人のために職業訓練を行い、企業に対しても障がい者の雇用を促進するよう求めていくことなどを挙げています。



**イー・チャン・ローさん**  
愛称: リサ  
出身地: シンガポール  
聴覚障がい

母国では、シンガポールろう・難聴者連盟の事務局長を務めているリサさん。事務局の活動のほか、ろう者のアイデンティティ形成のサポートや就労斡旋などの活動を行っています。日本の研修では、社会に対するろう者の啓発活動をはじめ、盲ろう者の自立生活、盲ろう者が利用できる福祉制度やサービス、盲ろう者に対する通訳介助者の養成方法などについて学びました。帰国後は、シンガポールろう協会内に「盲ろう者通訳介助者養成講座」を実施することを目標にしています。



### 第15期生 日本での主なスケジュール

- 2013年9月.....開講式  
日本語(日本語手話)研修
- 2013年12月.....日本語成果発表
- 2014年1月.....ホームステイ  
グループ研修
- 2014年2月.....個別研修(~5月)
- 2014年6月.....成果発表会・修了式

現在までに  
25の国と地域から  
109名が参加

# 全国各地で、愛の輪運動地域実行委員会による活動が行われ、愛の輪運動への理解とご支援の輪がさらに広がりました。

## 愛の輪運動地域実行委員長会議を開催

2013年6月5日と9月2日に、「愛の輪運動地域実行委員長会議」がダスキン本社ビルで開催され、各地域での活動や計画が報告されました。



## 北海道地域

道内各エリアの組織員大会、スポーツ大会、ファミリー大会にて、映像放映などで愛の輪運動を説明し、会員募集と募金活動を行いました。



## 東北地域

8月22日、福島県郡山市のペップキッズ郡山にて、愛の輪基金のPRと会員募集を目的とした「福島エリア・ケア加盟店会清掃活動」を実施しました。



## 北関東地域

10月18日、長野県上田市の丸子総合体育館で、長野・山梨エリアのケアサービス加盟店会120名が参加して清掃活動を実施しました。



## 東京地域

9月21日、東京スカイツリータウンにてクリーンアップ・マイタウンを開催し、スタッフを含む415人が参加。会場では公益財団法人日本盲導犬協会と連携して、愛の輪運動のPRと盲導犬による「ふれあい会」を実施しました。



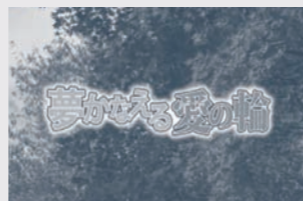
## 南関東地域

8月29日、メルパルク横浜で開催されたCS・ケアブロック合同経営者勉強会で、第30期研修派遣生・片岡亮太さんによる講演と和太鼓の演奏を実施しました。



## 北陸地域

第20期研修派遣生・吉田知栄美さんが代表を務める自立生活センターでの活動映像「夢かなえる愛の輪」(3分間)を北陸朝日放送ミニ番組として制作。11月16日、23日、30日に放映されました。



## 東海地域

第18期研修派遣生・今村彩子さんの監督作品「つりざお」の映画鑑賞・ふれあい交流会を、3月29日に名古屋東急ホテルで開催。愛知県在住の研修派遣生と地域実行委員が交流しました。



## 近畿地域

2月8日、大阪国際交流センターで「ダスキン愛の輪基金映画観覧会」を開催。第28期研修派遣生の畑俊彦さんの講演と映画「最強のふたり」を上映しました。



## 中国地域

3月14日、オリエンタルホテル広島で開催された広島エリア会ホームサービス組織員インセンティブ表彰大会にて、第22期研修派遣生・木島英登さんが講演を行いました。



## 四国地域

10月14日、サンメッセ香川(高松市)で開催されたダスキンフェア2013 inかがわでの「愛の輪の集い」にて、第18期研修派遣生・今村彩子さんが講演を実施しました。



## 九州地域

9月7日、第24期研修派遣生・北部自立生活センター希輝々と共催で、沖縄県名護市幸喜ビーチにて海辺でのレクリエーション活動「第9回フィールドトリップILP」を開催しました。



## 新春の集い

### 【北海道地域】

北海道在住の研修派遣生6名が参加、また、第30期研修派遣生・片岡亮太さんが和太鼓を演奏。(1月17日、札幌)



### 【東北地域】

第30期研修派遣生・織田友理子さんが講演。(1月18日、仙台)

### 【東京地域】

第27期研修派遣生・小島淳さんがチャリティコンサートでサクソフォンを演奏。(1月14日、東京)

### 【東海地域】

第30期研修派遣生・片岡亮太さんが講演と和太鼓演奏。(1月14日、名古屋)

### 【近畿地域】

第27期研修派遣生・AYaKoグループがコンサート。(1月10日、大阪)

### 【中国・四国地域】

第30期研修派遣生・木村敬一さんが講演。(1月16日、松山)

### 【九州地域】

第30期研修派遣生・木村敬一さんが講演。(1月15日、福岡)

## 愛の輪タイム

### ダスキンファミリー感謝のつどい 愛の輪タイムで研修派遣生が講演

全国各地で開催された「ダスキンファミリー感謝のつどい」の愛の輪タイムで、愛の輪の障害者リーダー育成研修生が研修成果を講演。参加した研修生と会場は別表のとおりです。



西条(愛媛)会場	第18期研修派遣生 今村 彩子さん
大阪・熊本会場	第30期研修派遣生 織田 友理子さん
東京会場	第30期研修派遣生 木村 敬一さん
札幌会場	第30期研修派遣生 片岡 亮太さん
天童(山形)会場	第17期研修派遣生 長谷川 英里さん
鯖江(福井)会場	第30期研修派遣生 安田 真之さん
西尾(愛知)会場	第25期研修派遣生 石川 亜紗美さん
松山会場	アジア第15期研修生 ナムチョック・ベットセンさん
広島会場	第31期研修派遣生 井上 幸子さん

## 各地で「愛の輪チャリティゴルフ」を開催! ご参加の皆様から多くのご献金をいただきました。

- 【東北地域】「東北地域南3県 愛の輪チャリティゴルフ大会」東蔵王ゴルフ倶楽部(6月18日、参加15名)  
「東北地域北3県 愛の輪チャリティゴルフ大会」北上カントリークラブ(7月12日、参加23名)
- 【東京・南関東地域】東京・南関東地域合同「愛の輪チャリティゴルフ大会」湘南シーサイドカントリー倶楽部(10月22日、参加74名)
- 【東海地域】「東海地域 愛の輪チャリティゴルフ大会」貞宝カントリークラブ(10月17日、参加36名)
- 【近畿地域】「近畿地域 愛の輪チャリティゴルフ大会」北六甲カントリー倶楽部(10月18日、参加64名)
- 【中国地域】「中国地域 愛の輪チャリティゴルフ大会」千代田OGMゴルフカントリー倶楽部(10月22日、参加29名)
- 【四国地域】「四国地域 愛の輪チャリティゴルフ大会」サンセットヒルズカントリー倶楽部(3月27日、参加19名)
- 【九州地域】「九州地域 愛の輪チャリティゴルフ大会」武雄・嬉野カントリー倶楽部(10月19日、参加24名)

## ミスタードーナツ 第34回フレンドシップフェスティバル 各地域大会の愛の輪タイムで研修派遣生が講演

ミスタードーナツで働く方々が日頃の技やサービスを競う「ミスタードーナツフレンドシップフェスティバル」の愛の輪タイムで、愛の輪の研修派遣生が研修成果を講演。参加した研修派遣生と地域大会は別表のとおりです。



北海道地域大会・東京地域大会	第31期研修派遣生 石田 由香理さん
東北地域大会	第30期研修派遣生 永井 のぞみさん
北関東地域大会	第18期研修派遣生 青柳 まゆみさん
神奈川地域大会	第30期研修派遣生 片岡 亮太さん
北陸地域大会	第29期研修派遣生 吉田 沙矢香さん
東海地域大会	第30期研修派遣生 安田 真之さん
近畿地域大会	第29期研修派遣生 高田 朋枝さん
中四国地域大会	第31期研修派遣生 井上 幸子さん
九州地域大会	第31期研修派遣生 岩崎 佐智子さん

2013年度(第33期)の会費・寄付金等の合計収入は、  
約1億8千6百万円です。

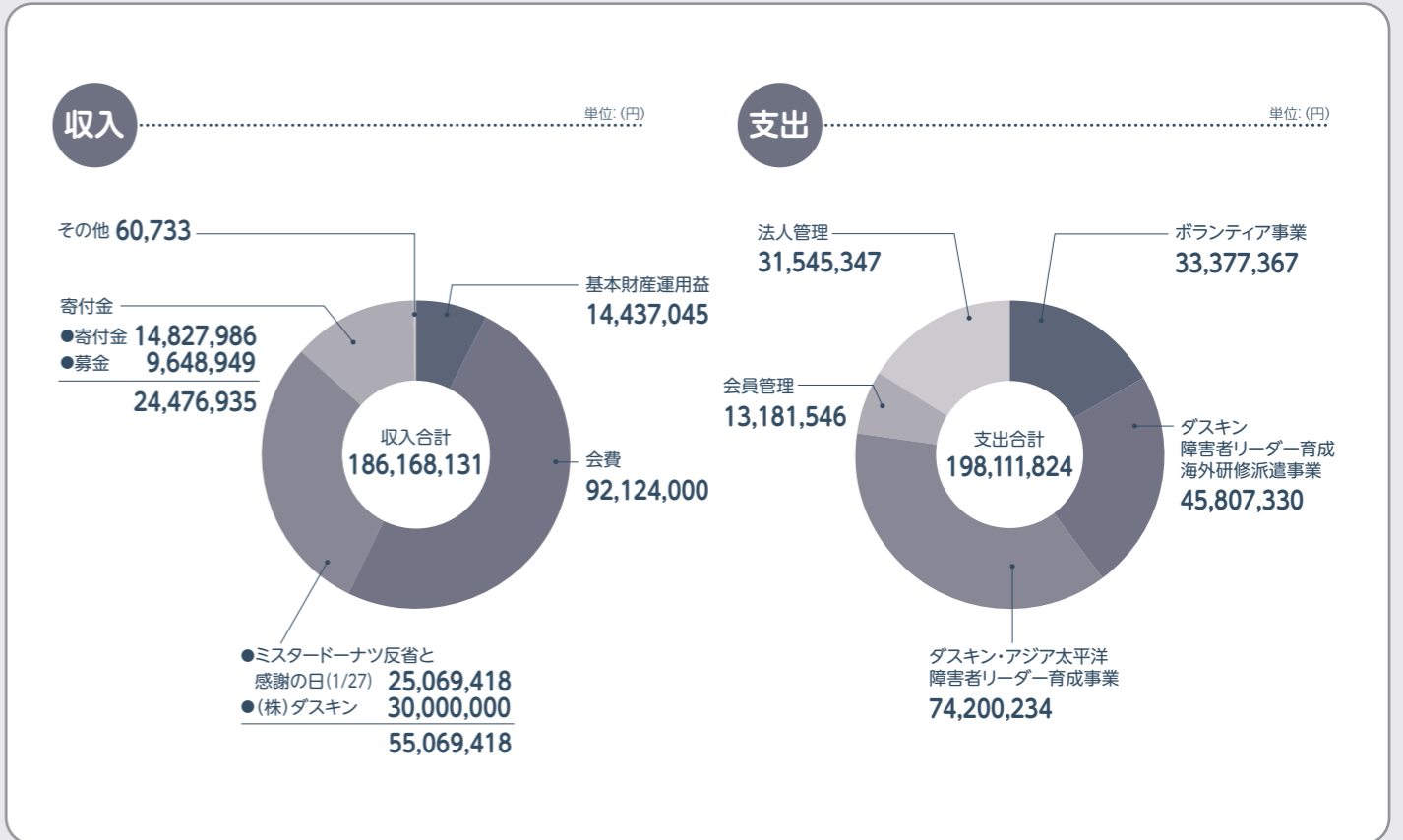
科目	合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益 基本財産受取利息	14,437,045
受取会費計	147,193,418
受取寄付金計	24,476,935
雑収益計	60,733
経常収益計	186,168,131
経常費用計	198,111,824
当期経常増減額	-11,943,693
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	-11,943,693
一般正味財産期首残高	87,701,870
一般正味財産期末残高	75,758,177
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	1,855,000,000
指定正味財産期末残高	1,855,000,000
III 正味財産期末残高	1,930,758,177

	第31期 2012.3.31	第32期 2013.3.31	第33期 2014.3.31
資産の部			
流動資産	77,276	86,424	71,378
固定資産	1,865,970	1,869,404	1,874,617
資産合計	1,943,246	1,955,829	1,945,996
負債の部			
流動負債	13,046	2,406	3,622
固定負債	9,098	10,721	11,615
負債合計	22,145	13,127	15,238
正味財産の部			
指定正味財産	1,855,000	1,855,000	1,855,000
一般正味財産	66,101	87,701	75,758
正味財産合計	1,921,101	1,942,701	1,930,758
負債及び正味財産合計	1,943,246	1,955,829	1,945,996

\*記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	
【流動資産】	
現金預金	68,933,133
貯蔵品	1,825,866
前払金	200,000
仮払金	420,000
流動資産合計	71,378,999
【固定資産】	
基本財産	1,855,000,000
その他の固定資産	19,617,384
固定資産合計	1,874,617,384
資産合計	1,945,996,383
負債の部	
【流動負債】	
未払金	2,975,496
前受会費	216,000
預り金	430,714
流動負債合計	3,622,210
【固定負債】	
退職金給与引当金	11,615,996
固定負債合計	11,615,996
負債合計	15,238,206
正味財産	1,930,758,177

収入・支出



会員数の推移

	法人会員	特定法人会員	エルダー会員	働きさん会員	個人会員A	個人会員B	個人会員C	小計	メイト会員	(累計)	合計会員数	(累計)
第31期 2012 3.31	237	444	562	1,744	1,523	2,822	5,550	12,882	469	173,225	13,351	186,107
第32期 2013 3.31	233	439	547	1,709	1,465	2,870	5,791	13,054	282	173,507	13,336	186,561
第33期 2014 3.31	229	448	535	1,774	1,409	2,854	6,440	13,689	168	173,675	13,857	187,364

# 第33期(2013年)は、研修派遣生9名を世界各国へ派遣しました。

- 第1期 1981年**
  - 3月16日:東京・帝国ホテルで「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」の記者発表会が行われる。
  - 11月26日:厚生省より「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」としての認可を受ける。
  - 11月30日:10名の留学生在が決定。壮行会が行われる。
- 第2期 1982年**
  - 1月7日:第1期留学生10名をアメリカに向け派遣。
  - 1月27日:ミスタードーナツ1日チャリティが行われる。
- 第3期 1983年** ●留学生9名を派遣。
- 第4期 1984年** ●留学生9名を派遣。
  - 「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」事業に対し、故山西利夫氏が「ヘレンケラー・アンサリバンゴールドメダル」を受賞する。
- 第5期 1985年** ●留学生9名を派遣。
- 第6期 1986年** ●留学生8名を派遣。
  - 研究開発助成事業の成果をうけて、蛋白質の異常代謝によって起こる、フェニルケトン尿症患者のための「フェニルアラニン除去ドーナツミックス」をミスタードーナツと日本製粉が協力し開発する。
- 第7期 1987年** ●留学生8名を派遣。
- 第8期 1988年** ●留学生7名を派遣。
- 第9期 1989年** ●留学生7名を派遣。
- 第10期 1990年** ●留学生10名を派遣。
- 第11期 1991年**
  - 障害者リーダー米国留学派遣事業の冠名がミスタードーナツよりダスキンに変わる。同時に米国留学が海外研修に、団体研修27名(介助者を含む)を2チームで、2週間のアメリカ研修を行う。
  - 全国10地域に愛の輪地域推進委員会が誕生。
  - 第1回「愛の輪のつどい」が開催される。

- 第12期 1992年**
  - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に98名(介助者を含む)を派遣。障がい別に4チームを編成。知的障害者チームはスウェーデンへ、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由チームはアメリカで約2週間の研修を行う。
- 第13期 1993年**
  - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣に97名(介助者含)を派遣。肢体不自由者のチームを2チームに増やすと共に、てんかんのチームを編成、合計6チームでアメリカに2週間、障がい者の「就労」をテーマに学ぶ。
- 第14期 1994年**
  - 全国59地区に愛の輪地区実行委員会を設立。
  - ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業は、個人長期研修派遣生8名を派遣。また知的障害者グループ短期研修生5名(援助スタッフ6名)をアメリカに派遣。
- 第15期 1995年**
  - 愛の輪地区実行委員会を全国72地区に編成。
  - 研修派遣生10名を派遣。
- 第16期 1996年** ●研修派遣生10名を派遣。
- 第17期 1997年** ●研修派遣生9名を派遣。
- 第18期 1998年** ●研修派遣生7名を派遣。
  - 第18期研修派遣生の松江美季さんが長野パラリンピックで金メダル3個を獲得。その活躍に対し、「愛の輪賞」を贈呈。
- 第19期 1999年** ●研修派遣生9名を派遣。
  - ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業をスタート。
- 第20期 2000年** ●研修派遣生8名を派遣。
- 第21期 2001年** ●研修派遣生9名を派遣。
- 第22期 2002年** ●研修派遣生9名を派遣。
- 第23期 2003年**
  - 財団設立25周年記念事業として、「グループ研修派遣」が加わる。
  - 研修派遣生11名(2グループ7名、個人研修生4名)を派遣。

- 第24期 2004年**
  - 研修派遣生12名(2グループ8名、個人研修生4名)を派遣。
- 第25期 2005年**
  - 11月16日:ヒルトン東京において「財団設立25周年記念式典」が開催される。
  - 研修派遣生11名(1グループ6名、個人研修生5名)を派遣。
- 第26期 2006年**
  - 研修派遣生12名(3グループ9名、個人研修生3名)を派遣。
- 第27期 2007年**
  - 研修派遣生12名(2グループ8名、個人研修生4名)を派遣。
- 第28期 2008年**
  - 研修派遣生30名(4グループ17名、個人研修生5名、新設したジュニアリーダー育成グループ8名)を派遣。
- 第29期 2009年**
  - 研修派遣生16名(2グループ8名、個人研修生8名)を派遣。
- 第30期 2010年**
  - 研修派遣生27名(4グループ21名、個人研修生6名)を派遣。
  - バンクーバー2010パラリンピック冬季競技大会のアイススレッジホッケーに出場し、銀メダルを獲得した第21期研修派遣生 永瀬充さんに、「愛の輪賞」を贈呈。
  - 12月3日、広げよう愛の輪運動の30年間にわたる障がい者のための福祉事業が認められ、「第60回障害者自立更正等厚生労働大臣表彰」を授賞。
- 第31期 2011年**
  - 研修派遣生19名(2グループ13名、個人研修生6名)を派遣。
  - 2011年12月、公益法人の認定を受け、2012年2月、「公益財団法人ダスキン愛の輪基金」として名称も新たにスタート。
- 第32期 2012年**
  - 研修派遣生13名(2グループ10名、個人研修生3名)を派遣。
- 第33期 2013年**
  - 研修派遣生9名(1グループ5名、個人研修生4名)を派遣。
  - ロンドン2012パラリンピック競技大会の水泳競技において、銀メダル(100m平泳ぎ)と銅メダル(100mバタフライ)を獲得した、第30期研修派遣生 木村敬一さんに対して「愛の輪賞」を贈呈。

役員

(2014年6月現在)

理事	理事長	山村 輝治	(株)ダスキン 代表取締役社長
	専務理事	岡本 正寿	(株)ダスキン ミスタードーナツカレッジ学長
	常務理事	山本 典芳	(公財)ダスキン愛の輪基金 事務局長
	理事	小野 金夫	タイホウグループ 会長
	理事	宮城 まり子	(学)ねむの木学園 理事長
	理事	小野 正師	ダスキンフランチャイズチェーン全国加盟店会 理事長
	理事	松友 了	社会福祉士事務所・早稲田すばいく 社会福祉士
	理事	五十嵐 紀子	(社福)光友会 理事長・総合施設長
	理事	松井 亮輔	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 副会長
	理事	関 宏之	(社福)日本ライトハウス 常務理事
	理事	宮原 英基	ミスタードーナツフランチャイズ共同体 理事長
	理事	佐藤 善則	ダスキン生産協栄会 理事長
評議員	理事	大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院 教授
	理事	田門 浩	都民総合法律事務所 弁護士
	評議員	青柳 紀	(株)ヨコハマフーズ 代表取締役社長
	評議員	東 正樹	ダスキンユニフォームサービスFCチェーン会 理事長
	評議員	片石 修三	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 常務理事
	評議員	君塚 葵	心身障害児総合医療療育センター 所長
	評議員	須田 隆	興隆産業(株) 代表取締役
	評議員	下 二郎	ダスキン労働組合 委員長
	評議員	田中 徹二	(社福)日本点字図書館 理事長
	評議員	田中 義隆	ダスキン全国ケアサービス加盟店会 理事長
	評議員	中尾 知也	ダスキンレントオールコミュニティ会 理事長
	評議員	花島 弘	(公財)共用品推進機構 理事
監事	評議員	福渡 靖	医療法人恭和会 介護老人保健施設 常総の郷 元施設長
	評議員	前田 仁夫	(株)ダスキン 代表取締役会長
	監事	鶴見 明久	(株)ダスキン 常務取締役
顧問	顧問	伊東 英幸	(株)ダスキン 元代表取締役会長

ダスキン障害者リーダー育成海外研修派遣事業実行委員会 委員

(2014年6月現在)

八木 三郎	天理大学 准教授	武居 光	(社福)十愛療育会 障害者支援施設 たっちほどがや 副所長
樋口 恵子	全国自立生活センター協議会 元代表	平野 みどり	熊本県議会議員
谷口 明広	愛知淑徳大学 福祉貢献学部 教授	青松 利明	筑波大学付属視覚特別支援学校 教諭
大杉 豊	筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授	青柳 まゆみ	愛知教育大学 障害児教育講座 准教授
川名 紀美	ジャーナリスト	金塚 たかし	特定非営利活動法人 大阪精神障害者就労支援ネットワーク 統括所長

ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業実行委員会 委員

(2014年6月現在)

寺島 彰	浦和大学 総合福祉学部 教授	宮本 一郎	(財)全日本聾唖連盟 アジア太平洋地域事務局担当
山口 和彦	特定非営利活動法人 居宅移動支援事業所 TOMO 事務局長	稲 淳子	精神保健福祉士
河村 宏	特定非営利活動法人 支援技術開発機構 副理事長	野村 美佐子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 情報センター長
高嶺 豊	特定非営利活動法人 エンパワメント沖縄 理事長	奥平 真砂子	(公財)日本障害者リハビリテーション協会 企画研修部 研修課長
小倉 國夫	アジア障害者支援プロジェクト 事務局長	村瀬 道雄	横浜訓盲学院 教頭

愛の輪運動地域実行委員会 委員長

(2014年6月現在)

北海道地域	中嶋 康	(株)ダスキン洞爺 代表取締役
東北地域	藤村 弘之	(有)藤村商会 代表取締役
東京地域	原田 守康	(株)シー・クルー 代表取締役社長
北関東地域	寺澤 義孝	(株)西蒲原 代表取締役社長
南関東地域	牧野 保	(有)ダスキン茂原 代表取締役社長
北陸地域	八木 信人	(株)ダスキン福井 代表取締役
東海地域	酒徳 正吾	(有)ダスキン米彦 代表取締役
近畿地域	守屋 栄利	(株)アイエー 代表取締役
中国地域	橋詰 正紀	ダスキン愛の店廿日市(株) 代表取締役
四国地域	橋本 登	(株)クエスト 代表取締役
九州地域	門野 美郎	オーリック(株) 代表取締役社長



## めい あい へるぷ ゆう — ダスキン愛の輪基金

1980年8月22日、ダスキンを創業して17年目、創業者 鈴木清一が永眠されました。  
終生願っていた「祈りの経営」という独自の経営理念と、  
その思想「人を育てる」「惜しみない愛を捧げる」という  
愛の精神を受け継ぎ、前進できる目標が必要でした。

●  
翌年の1981年 国連が提唱した国際障害者年のテーマ、  
障がい者の社会への「完全参加と平等」の趣旨に沿って、  
創業10周年を迎えたミスタードーナツが、お世話になった地域の皆さまへ  
お礼返しとして、「ミスタードーナツ障害者リーダー米国留学派遣」を提唱し、  
日本全国に大きな影響をもたらし、その事業継承のため、  
ダスキンの社会貢献活動のひとつとして、「財団法人 広げよう愛の輪運動基金」が発足し、  
2012年2月 内閣府の公益認定を受け  
「公益財団法人 ダスキン愛の輪基金」として生まれ変わりました。

●  
「めい あい へるぷ ゆう？（何かお手伝いすることはありませんか？）」、  
私たちにできることはほんの小さいことかもしれませんが、誰かのために、  
何か少しでもお役に立たせていただきたい。街角で困った人を見かけたら、お手伝いしたい。

●  
一人ひとりの真心や優しさを行動に表し、  
「障がい者の自立と社会との共生」の実現を願い、小さなボランティアの輪が広がって、  
障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が心豊かな社会になりますように願っています。

## あいのわ宣言

私たちは、この運動を通じて障害者の方々が社会への完全参加を果たせるよう  
平等の立場から、心身障害児・者福祉の発展に努めることを誓います。

### 「広げよう愛の輪運動」会員憲章

私たちは、人間の尊厳と社会正義の信念に基づき、  
心身に障害を有する人びとと、すべてを連帯する。

●  
私たちは、「広げよう愛の輪運動」のシンボル・バッジを掲げ、  
広く多くの人びとに運動の理念を啓発し、併せて参加を呼びかける。

●  
私たちは、障害者における安全な社会環境の整備を求め、  
障害者のニーズを理解し、  
ボランティア活動等の遂行のために、知識と能力の研鑽に努力する。

●  
すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊ばれ、諸権利を有し、そして平等である。  
私たちは、すべての人間が深い絆で結ばれ、  
社会への完全参加を指針とし、援助と協力を積極的に行う決意をここに宣言する。



## 公益財団法人 ダスキン愛の輪基金

〒564-0063 大阪府吹田市江坂町3-26-13 ダスキン江坂町ビル  
TEL.06-6821-5270 FAX.06-6821-5271 <http://www.ainowa.jp>